## 課長補佐

### 変わらない使命を受け継ぐ

国税庁　課税部
課税総括課　課長補佐

**田中 宏明**　平成26年入庁

### スマホで海外口座

水谷三公著「日本の近代 官僚の風貌」によると、明治時代の官吏は、男性しかいませんでしたが、揃って「ヒゲを伸ばして得意顔」だったとか。目標としていた列強諸国を意識していたとも。では今は？と言うと、各府省庁とも多様な人材がいて、何より周りを取り巻く環境も多様であることは言うまでもありません。

そんな令和の時代、私は課税総括課で国際調査の担当として職務にあたっています。今はスマホで海外口座を開設できるなど、多様な資産運用が可能である一方、それを悪用することも可能です。例えば、財産を海外へ移転して税負担を不当に免れようとする者をどう把握して対処するか、一騎当千の仲間と共に、脳みそに汗かく日々を過ごしています。

### 一府十二省庁

「多様」という話に乗っかると、国税庁の総合職職員には、留学や出向など多様なキャリアパスがあり、私も内閣官房、財務省、デジタル庁へ合計5年間出向しました。

このうち2年間を過ごした内閣官房副長官補室では、当時の重要施策の取りまとめと各省庁の総合調整を担当しました。送付するメールの宛先には一府十二省庁の名がずらり。各省庁からの問い合わせに数時間忙殺されることもしばしば。時に困難を伴う職務でしたが、上司や仲間と何とか業務をやり遂げたときの達成感たるや、ヒゲは伸ばして無いものの、思わず「得意顔」をしてしまいそうになるほどでした。

### 変わらない使命

国税庁の主要な任務である「内国税の適正かつ公平な賦課及び徴収の実現」は、国家が行政サービスを提供する上で不可欠であり、これらの任務をとおして果たすべき国税庁の使命は、明治から令和にかけて組織の在り方を変えつつ、諸先輩方から途切れることなく受け継がれたものに他なりません。

皆さんも、「ヒゲを伸ばして得意顔」をしていた先輩から受け継がれた使命に、一緒に取り組んでみませんか。国税庁でお待ちしています。

## 課長補佐

### 「税」をあらゆる切り口から捉え、考える仕事

国税庁　長官官房
参事官　課長補佐

**池田 麻実**　平成26年入庁

### 税務行政を支えるシステム部署

私は現在、国税庁内の「システム屋さん」である参事官という部署で、課長補佐をしています。ここでは、5万6千人の職員が日々使うシステムの開発・運用やこれらに関する企画・調整等の業務を担当しています。

国税庁は国民の税務情報という、気の遠くなるほど膨大で大変機微な情報を扱っています。さらには、私たちの担う税務行政は、毎年の複雑な税制改正や国際化・デジタル化の進む経済取引に、遅れを取ることなく対応していく必要があります。日々の業務を正確かつ効率的に行うためにも、安定的なシステム運用はもちろん、時代にマッチしたシステムへのブラッシュアップも課題となっています。

### 国税庁での歩み

入庁1年目、私は人事課で「学生と国税庁をつなぐ架け橋になる！」と奮闘していました。他部署の課長補佐に講演の依頼をするときには大変緊張して説明に行ったことを、昨日のことのように覚えています。先輩方の職歴（採用パンフレットにずらっと並んでいたりしますよね）を見ては、すごいなぁと憧れていたものです。

気づけば、私も国税庁に入庁して10回目の春を迎えようとしています。その間、財務省で忙しくも充実した日々を過ごしたり、産休・育休を経て価値観のバージョンアップが発生したり、大きな判決をドキドキしながら待ったり…。1年として同じ繰り返しだったことはありません。配置換えのたびに新たな世界に触れては自身の無知・無力を思い知り、特に子育てをしながら働くようになってからは、本当にたくさんの上司や同僚に支えられ、一歩…いや、半歩でも！前に進もうと奮闘する日々です。

### 国税庁総合職の魅力

「税」という普遍的なその存在を、あらゆる切り口で捉え、考えていくこの国税庁総合職の面白さは、一言では語り尽せないと思います。私自身、これから先10年20年と続いていく職業人生を使って、存分に味わい尽くしていく予定です。

「税法」という世界の奥深さ、「税の適正かつ公平な賦課徴収の実現」というシンプルかつ壮大な使命の重さ、そして共に働く人々の魅力など…何か1つでもピン！とくるものがあれば、その直感を信じて国税庁の門を叩いてみてほしいと思います。